

## クリスマス懇話会 2010

2010年12月23日

於：名古屋市がん相談情報サロン・ピアネット



昨日はピアネットで、午前と午後2部制のクリスマス懇話会を開きました。

参加者は、ピアネットご利用者とピアサポーター、66名。実行委員は第3期ピアサポーターの方々が引き受けて下さいました。その中でもとりわけ張り切って準備に励んでくれたKさんが、事情で出席できないことになり、本当に残念でした。



でも、助っ人のMさんのお力添えと、IさんHさんの大健闘で、とても良いムードのクリスマス懇話会になりました。会はお仕事で研修講師も務めるHさんの、淡々としたトーンながらもツボを得た司会で進み、お茶・お菓子を楽しみながらの懇談はそこかしこで盛り上がっています。懇談のテーマが「がんになって良かったこと」と聞けば、がん患者さんでない方たちは、さぞかし驚くことでしょう。

ポジティブなテーマが、前向きな発想を引き出し、心を明るくします。「がんになって良かったこと」→「こんな素晴らしい出会いがあった」というような声があちこちで聞かれました。



懇話会の結びは、Iさん(男性)Mさん(女性)のコンビによる朗読。

といっても物語を読むわけではありません。

婦人公論の12月7日号に「女性とがん～よりよく生きるために」という特集がありました。その中で、乳がんを体験したエッセイストの岸本葉子さんと血液内科医の坂下千瑞子さんが「患者仲間との出会いに導かれて」というタイトルで対談をしています。その対談をお二人が

役割分担をして朗読したのです。紙面は何ページもあり、読むととても長いものになりますが、お二人とも滑らかに読み進んでいきます。

エッセイストの岸本葉子さんは、がんを患ったことで厭世的な気持ちに見舞われ、自分の殻に閉じこもりがちになります。それが患者会に出会い活動をするようになってから、明るく前向きに「がん」と向き合うように変わっていくのです。その様子が語られているのですが、それはもしかしたら、このクリスマス懇話会に参加するすべての人に共感できる経緯なのかも知れません。少なくとも、この準備やお手伝いに関ったピアサポーターの方々には共通する思いでしょう。Iさんは朗読が終わってから「感情移入してしまって涙が出てきた」と言っていました。

ことあるごとに「勉強、勉強」のミーネットでしたが、今後は「語りあい」を始めとして、楽しいプログラムも考えていきたいと思えます。

実行委員の皆さん、お手伝いいただいた方々、ご参加の皆さま、本当に有難うございました。

●左は参加者のメッセージをまとめたもの。

右は実行委員とお手伝いいただいた3期ピアサポーターの皆さん

